

授業改善推進プラン＜学年別＞

2 年	課題分析	授業改善策
国語	【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○自らの意見をもつことはできているが、他者との交流を通して自分の意見や考えを再構築することが苦手である。 【情報の扱い方の問題点】 ○情報を適切に取捨選択することが苦手である。	【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○文章や相手の話から考えたこと、理解したことについて発表したり、話し合ったりする活動、また他者との交流を通して、自分の意見や考えがどのように変化したのかということを発表する機会を授業内で設ける。 【情報の扱い方に関する力の育成】 ○様々な資料から必要な情報を読み取る活動を計画的に行う。
社会	【基本的な知識・理解】 ○単元の核となる重要語句の理解や、その時間のねらいが曖昧になっている。 【思考力・判断力・表現力】 ○上記の知識を基に自身の考えをもち、まとめ、表現する力は全体的に課題がある。	【授業のねらい・流れの明示と用語の確認】 ○その時間の授業のねらいと流れを明確に示すことで、その時間におさえるべきポイントを全員で確認してまとめにつなげる。 ○小單元ごとに小テストを行い、学習への意識を促すとともに用語の確認を行う。 【まとめる時間の設定】 ○おさえた用語を中心に、その時間に学習した内容を自身でまとめる時間を授業内で設定する。その際、どのようにまとめたらいいか例文を出すなどしてできる全ての生徒が取り組める状況を作る。
数学	【知識・技能の問題点】 ○知識・技能の定着に大きな差が見られる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○自分自身の考えを他者に表現する力に課題が生徒が一定数いる。	【家庭学習の推進】 ○授業毎に振り返りを行い、不安と思われる箇所の復習を自宅で行う習慣を定着させる。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○分かっていることや問われていることを明確にし、課題解決への見通しを全体で共有する。その上で、自分の考えをもち、他者と伝え合う活動を通して、表現力を高めていく。
理科	【知識・技能の問題点】 ○一部の生徒において重要語句や元素記号や化学式などの基礎知識がほとんど身につけていない生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力等の問題】 ○実験の結果や自らの考えを文章に書き表すことが苦手な生徒が多い。	【定期的な小テスト、補充教室の実施】 ○定期的に基礎知識に関する小テストを実施し目標点に達しなかった生徒に対して補充教室を実施し、知識の定着を図る。 【B&Aシート（振り返りシート）の活用】 ○単元、および節ごとの課題を設定し、自らの言葉で定期的に学習を振り返ることで、自分の考えを文章に書き表す練習をする。
英語	【知識・技能の問題点】 ○語彙や文法などの基礎的な知識の定着ができていない生徒が一定数いる。 【主体的に取り組む態度の問題点】 ○授業で学んだことを使って、自分の意見を述べたり考えを話したりすることが苦手な生徒がいる。	【視覚的教材の積極的な活用】 ○語彙や文法への理解を深めるために、イラストや写真、動画などの視覚的教材を積極的に活用する。 【生徒が主体的に意見や発表ができる雰囲気づくり】 ○知識・技能の定着度を高め、得た知識を活用して、主体的に学習に取り組めるような授業づくりを行う。
美術	【知識・技能の問題点】 ○彫刻刀の使い方が危険な生徒が一部いる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○素材の強度や、自分の技量を越えた案を採用してしまうため、本番の作品に入った際に苦勞をする生徒がいる。	【知識・技能の改善点】 ○彫刻刀を扱う際は、授業の最初に全体に使い方の振り返りを行い、一部の生徒に対しては真っ先に机間指導を行う。 【思考力・判断力・表現力の改善点】 ○アイディアスケッチの段階で素材を触らせ、強度をイメージさせる。細かすぎる案は、省略や単純化した形の例をこちらから提示する。
音楽	【楽曲に対する理解】 ○作詞者・作曲者や楽曲の成り立ち、歌詞の意味など基本的な知識が定着している生徒が少ない。 【表現力】 ○鼻濁音や抑揚のつけ方の工夫、強弱などの表現を積極的に行う生徒が少ない。	【視覚的な教材・学びの横断化】 ○デジタルタブレットを活用した映像などの視覚的な教材を取り入れ、学びの深化を図る。 ○鑑賞では楽曲の鑑賞から入り知識に結び付けたり、歌唱ではほかの作品との比較を取り入れたりすることによって入れ込み型の学びを脱却する。 【グループ活動の増加】 ○表現についてグループで話う時間を設け、意見共有を行うことで能動的な学習を図る。
保健体育	【主体的に学びに向かう態度】 ○授業規律の確立が不十分な面がある。与えられた課題にきちんと取り組む姿勢や、真摯に物事に向き合う姿勢に欠ける生徒がある一定数いるのが現状である。 【知識・技能】 ○基礎的な体力に大きく欠ける生徒が見受けられるだけでなく、全体的に身体能力や基礎技能に欠ける。	【授業規律の確立】 ○ごまかしてやり過ごそうとか、その時が楽しければよいといった刹那的な感覚を改善すべく、運動のより深い楽しさを体感させる中で、物事にきちんと取り組むことや、ある一定の規律の中で行う必要性を身に付けさせる。 【基礎体力や基礎技能の向上】 ○毎回の授業において、補強運動を取り入れるとともに、基礎技能の向上を図る。
技術	【エネルギー変換の技術】 ○製作等の実習を通して、科学的な知識や考え方を理解させ、学習したことを生活に生かそうとしていくことが課題である。	【エネルギー変換の技術】 ○電気機器の保守点検など作業実習だけでなく、その裏付けとなる科学的な知識をくり返し伝えたり、ICT機器などを利用したりして自ら学ぼうとするよう指導をする。 ○製作実習等、遅れがちな生徒に対しては授業で使ったスライドなどをクラスルームに貼り付けていつでも閲覧できるようにしておく。
家庭	【知識・技能の問題点】 ○小学校で学んだ基礎が身に付いていない生徒は、実技面で手間取ったり遅れをとったりすることが多い。	【技能の定着】 ○基礎的な説明を心掛ける。また、動画など生徒がいつでも見返して実践できる環境を整える。加えて、実習時に個別の声掛けや指導をする。